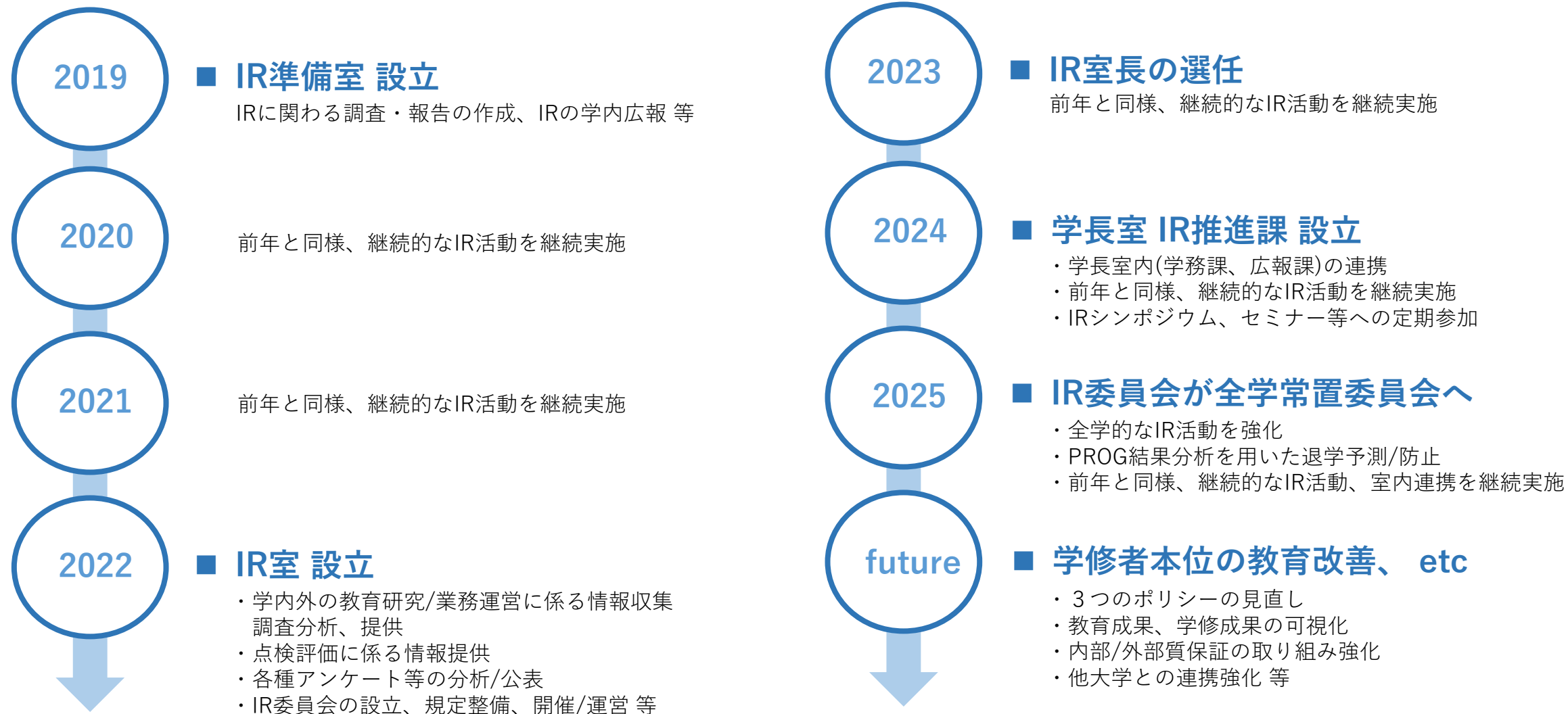


## ■ 学長室 IR推進課は前身のIR準備室から数え6年を迎え、活動の幅を広げています。



# 各種アンケート解析

新たな取り組み

## ■ 卒業時アンケートの分析 『満足度の低い学生に焦点を当て、解析を試みた』

### 課題

2024年度 卒業時アンケート 全体総括 U会議、M会議での報告

- 回答者数 (812名 内訳：経済111名、現政112名、経営206名、数学51名、化学39名、薬学96名、薬科学27名、医療栄養学34名、短大21名、別科1名、大学院経済学研究科3名、経営学研究科11名、理学研究科4名、薬学研究科22名)
- アンケートの回答率について、**前年比1.18倍**、若干の上昇。
- 全体を通して各設問の回答は、概ね「満足している」、「少し満足している」が80%以上を占め、**学生の満足度は例年通り高い。**

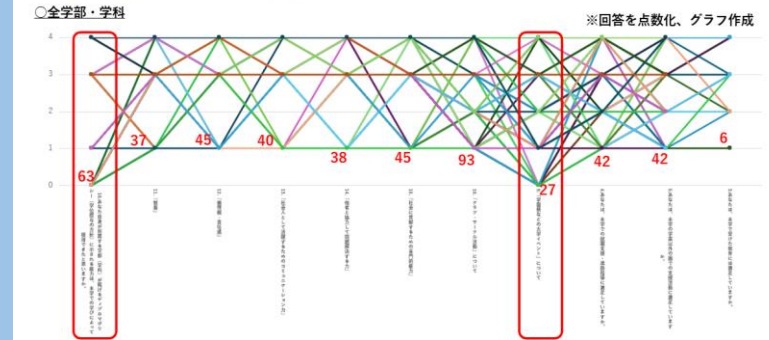
M委員会で分析するにあたり、満足度が低い学生の意見を解析する必要があるのではと考えた。

### 手法と結果、考察

問18 あなたの出身高校の後輩が進学先を検討する際、本学を薦めますか。

<分析1>

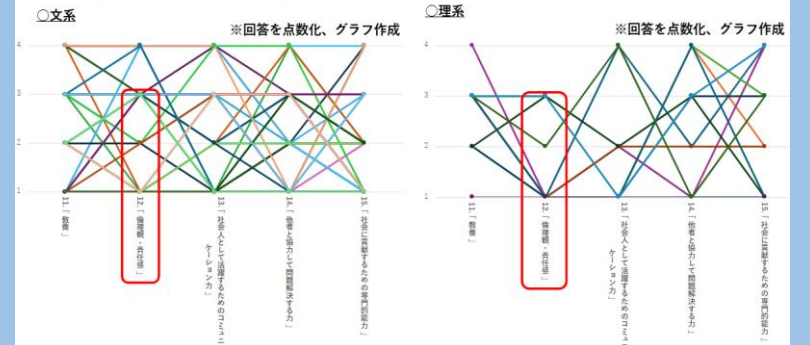
問18で、「薦めない」と回答した学生(2022年度～2024年度 計136名)の、問16, 11, 12, 13, 14, 15, 10, 9, 4, 5, 3の回答 (順番はこの通り)。



DP達成で「全くそう思わない」を1つでも回答した学生個人の他の回答

<分析2>

問11～15のいずれかにおいて、「全くそう思わない」と回答した学生の問11～15の回答 (回答に特異性があるかを確認)。



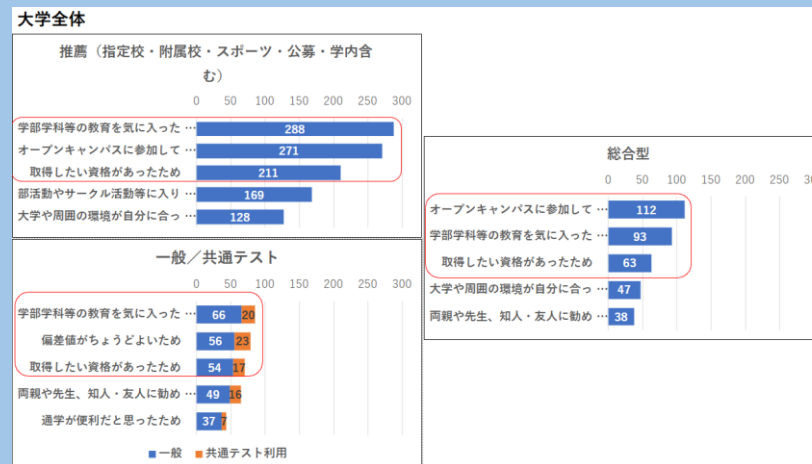
## ■ 新入生アンケートの分析 『出願(入学)の理由について(入試区分にて比較)、解析を試みた』

### 結果、考察

#### 課題と手法

問5 本学への出願を決めた理由について、教えてください。(複数回答可)  
クロス集計(問5の回答項目数 TOP5 × 入試制度、学部毎に集計)

- 学部学科等の教育を気に入ったため
- 取得したい資格があったため
- オープンキャンパスに参加して自分にあう大学だと思ったため
- 就職に安心感があると思ったため
- 大学や周囲の環境が自分に合っていると思ったため
- 部活動やサークル活動等に入りたかったため
- 両親や先生、知人・友人に勧められたため
- 通学が便利だと思ったため
- 海外留学や地域貢献活動に興味があるため
- ブランド力を気に入ったため
- 偏差値がちょうどよいため
- その他



#### 結果

- 年内入試において、オープンキャンパスが重要であることが確認できるが、「情報数理」では口コミ的な情報が有効であった。
- 一般入試では、結果がまちまちであり、学科ごとで、情報の伝わりが異なっていると考えられる。
- 「数学」と「化学・生命科学」で資格(教職?)の重要度が異なっていた。
- 「薬学」では、資格(薬剤師)の重要度が特に高く、一般に教育の特徴が伝わっていないと考えられる。

## ■ 新入生アンケートの分析 『入学時のDP1とDP2について(入試区分にて比較)、解析を試みた』

### 結果、考察

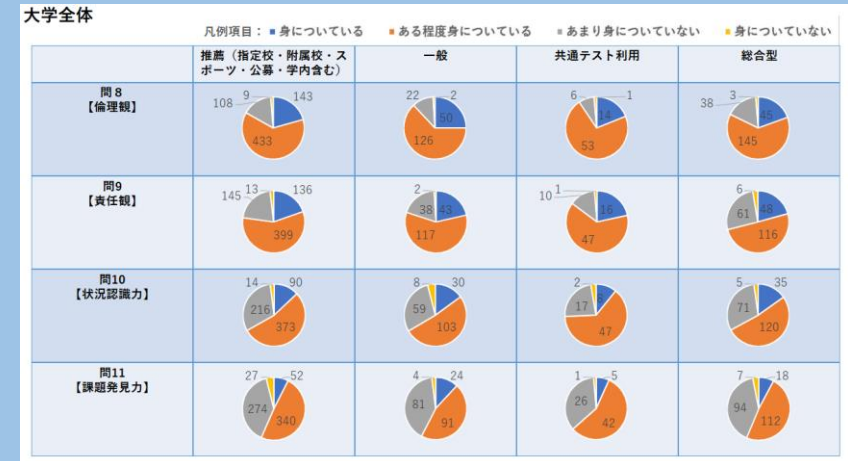
#### 課題と手法

##### 問8～問15 クロス集計(問8～問15の回答項目×入試制度、学部毎に集計)

- 問8.今現在、【倫理観】(人として社会の中であるべき態度を示す)は、どの程度身についていると思いますか。
- 問9.今現在、【責任感】(社会人としての言動を心がける)は、どの程度身についていると思いますか
- 問10.今現在、【状況認識力】(常に社会の状況を理解している)は、どの程度身についていると思いますか
- 問11.今現在、【課題発見力】(社会の課題・ニーズは何かという視点を常に持つ)は、どの程度身についていると思いますか
- 問12.今現在、【自己研鑽力】(常に今の自分を見直し、自己の強み弱みに対応できる)は、どの程度身についていると思いますか
- 問13.今現在、【交流力】(コミュニケーション能力を用いて人々と交流する)は、どの程度身についていると思いますか
- 問14.今現在、【相互理解・相互尊重】(相互尊重し、価値観を共有する)は、どの程度身についていると思いますか
- 問15.今現在、【協創力】(社会問題の解決を協創する)は、どの程度身についていると思いますか

★各問の回答選択肢は共通で以下となる。

- 身についている
- ある程度身についている
- あまり身についていない
- 身についていない



#### 結果

- 現状で、各DP観点において、学科間の違いや入試区分ごとの特徴は明確ではないが、今後他の情報との関係も解析していく予定である。

## ■ 新入生アンケートの分析『DPとPROGテスト結果の関係について、解析を試みた』

PROGとは、専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向-ジェネリックスキルを育成するためのプログラムです。PROGによって、学生は、大卒者として社会で求められているジェネリックスキルを意識化し、自身の現状を客観的に把握することが出来ます。

### 課題と手法

新入生のDPに関する自己認識とPROGテストの結果の関係について解析した。

- 利用データ
  - 新入生アンケート
    - DP1 【倫理観】を除く4項目
    - DP2 3項目
    - DP3 対象とせず
  - 新入生PROGテスト結果
    - 事前に対応関係を決めて、対応データを利用
- 解析方法
  - 順位相関係数



### 結果、考察

スピアマンの順位相関係数を用いた分析(経済学部 経済学科) ■有意差あり □有意差なし

新入生アンケート DP項目	PROGテスト リテラシー領域			PROGテスト コンピテンシー領域					
	【情報収集力】	【情報分析力】	【課題発見力】	【行動持続力】	【課題発見力】	【自己創出力】	【親和力】	【協働力】	【統率力】
【責任感】				0.11					
				P=0.1597486					
【状況認識力】	-0.06	0.06			0.09				
	P=0.4533204	P=0.4249501			P=0.2595233				
【課題発見力】			0.01	0.20					
			P=0.9041226	P=0.010689					
【自己研鑽力】					0.28				
					P=0.0003018				
【交流力】						0.47			
						P<0.0000000以下			
【相互理解・相互尊重】							0.15		
							P=0.0657812		
【協創力】								0.20	
								P=0.0094492	

### 結果

- DP1と2の観点について、対応するPROG項目を選択して解析した。
- 学生の自己評価（主観的評価）であるアンケート結果と客観的指標であるPROGの結果は、ある程度相関することが確認できた。
- 特に、「交流力」について相関が高かった。
- 経営学部では、選択した全てのコンピテンシー項目について、相関が認められた。
- 薬科学科、医療栄養学科では、相関する項目が少なかった。

## ■ 学びの成果確認アンケートの分析 『学生の成長度合について、解析を試みた』

### 結果、考察

#### 課題と手法

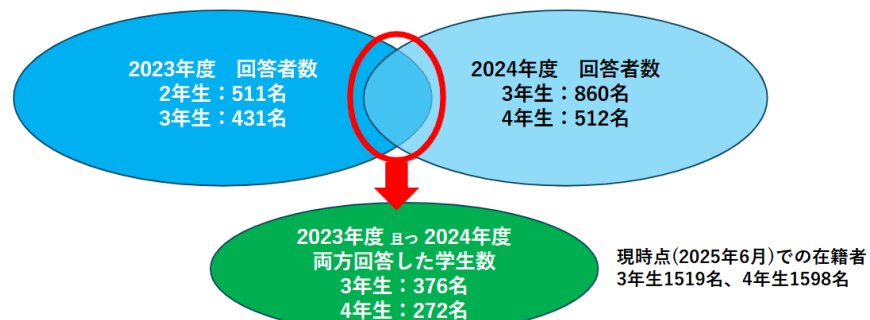
2023年度、2024年度の両アンケートを回答した学生について、「2023年度～2024年度の成長度合」に応じて、解析を実施。

「プラス/不変の学生」 → 2024年度の結果はどうか。

「マイナスの学生」 → 2023年度の結果はどうか。

#### 学びの成果確認アンケート

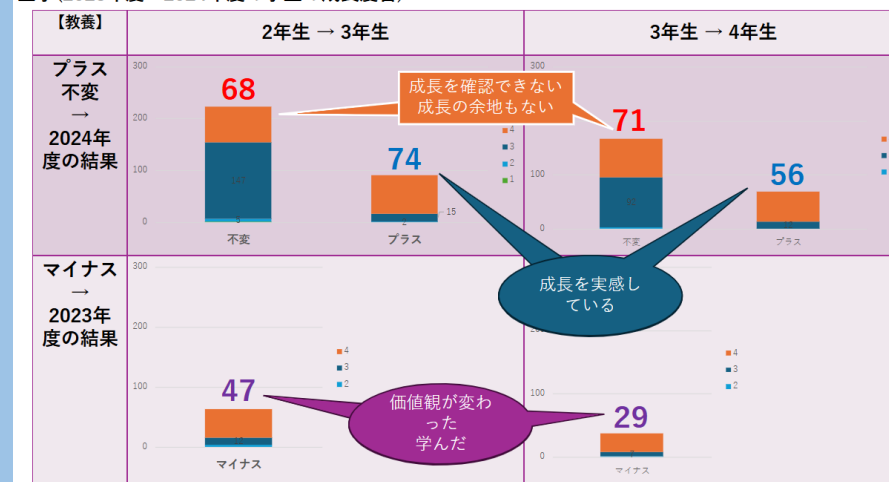
2023年度、2024年度の回答状況



<2023、2024年度のアンケート回答率>  
3年生 25%、4年生 17%



全学(2023年度～2024年度の学生の成長度合)



- プラスの学生で2024年度は最高評価(4)→**成長を実感**  
例) 2023年度 評価2 から 2024年度 評価4 へ
- 不変の学生で2024年度も最高評価(4)→**成長の余地なし**  
例) 2023年度 評価4 から 2024年度 評価4 へ
- マイナスの学生で2023年度は最高評価(4)→**価値観が変わった、学んだ**  
例) 2023年度 評価4 から 2024年度 評価3 へ

## ■ 学びの成果確認アンケートの分析『省察しない学生、回答数(回答率)について、解析を試みた』

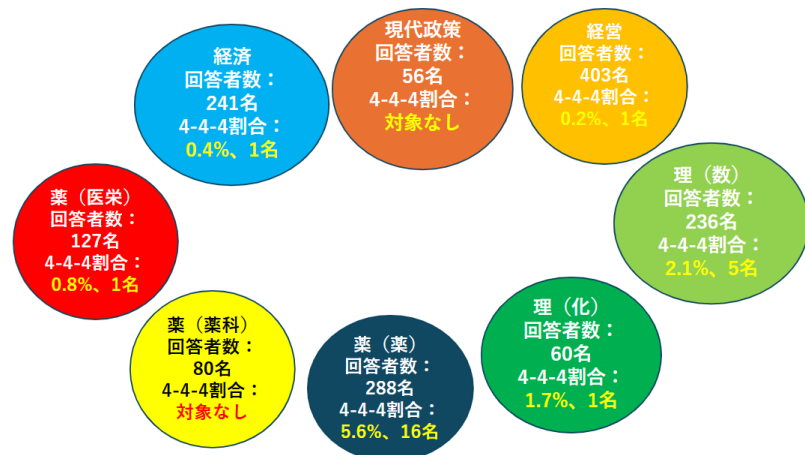
### 課題と手法

学生の自己評価に基づいて質保証を行うことへの懸念について

- 1) 学生が省察を行わず高い評価をつけること  
最高評価(4)の評価が3年間変化していない学生
- 2) 回答数、回答率の低さ  
教育の質の保証が困難

学部毎に2022年度～2024年度の3カ年データを用いて、集計/解析を実施。

【教養】 4-4-4の学生割合(単位: %、人数) 2022年度から2024年度 評価



### 結果、考察

4-4-4の学生割合(単位: % (人数)) 2022年度から2024年度 評価

学部	経済	政策	経営	数学	化・生科	薬	薬科	医栄
教養	0.4%(1)	0	0.2%(1)	2.1%(6)	1.7%(1)	5.6%(16)	0	0.8%(1)
豊かな人間的	0	0	0	1.7%(4)	0	6.9%(20)	0	0.8%(1)
道徳的観念	0.4%(1)	0	0	1.3%(3)	0	7.6%(22)	0	0
社会人振る舞い	0.4%(1)	0	0	1.3%(3)	0	6.6%(19)	0	1.6%(2)
コミュニケーション	0.4%(1)	0	0	1.3%(3)	0	5.6%(16)	0	0.8%(1)
行動する力	0.8%(2)	1.8%(1)	0.2%(1)	1.3%(3)	1.7%(1)	4.9%(14)	0	0.8%(1)
協力問題解決	0.4%(1)	0	0	1.3%(3)	0	7.6%(22)	0	0.8%(1)
専門的能力	0	0	0	0.8%(2)	0	4.2%(12)	0	0.8%(1)

各学部学科毎の回答状況(単位: %、人数)について



### 学生が4-4-4と回答している状況の分析

- 薬学科において4-4-4の学生が多い
- 全ての項目で同じ人数ではないので、4-4-4の学生でも、全く省察がなされていないとは言えない
- 薬学科が最も回答数(回答率)が大きく、このことが関係している可能性がある
- 回答数と回答精度の両方を高める指導が必要

## ■ 授業中間アンケートの分析 『経年比較、設問毎の比較について、解析を試みた』

### 結果、考察

#### 課題と手法

#### 授業中間アンケート

1. 全設問に対するポジティブな回答の比率
2. 2024年度春学期との比較
3. ポジティブな回答の区分ごとの2024年度春学期との比較
4. 設問ごとの比較：ポジティブな回答の比率
5. 設問ごとの比較：2024年度春学期との比較

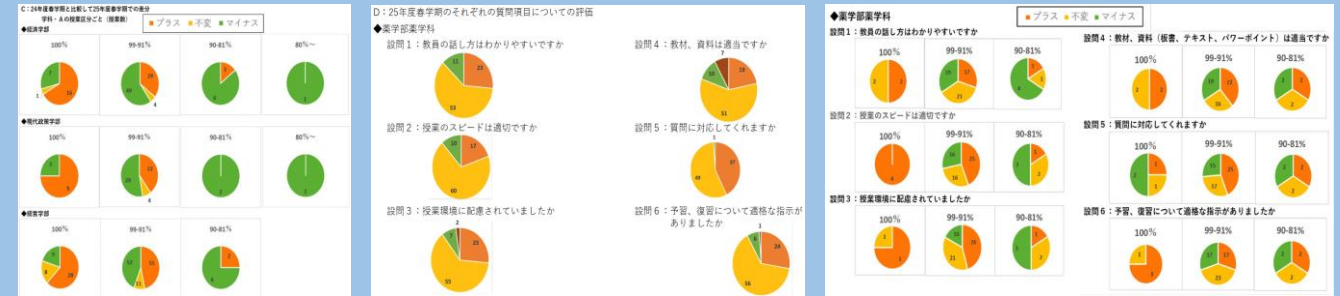


**A：2025年度春学期の評価（全学、学科ごと）**  
ポジティブな回答率（授業数）

学部学科	100%	99-91%	90-81%	80%~
経済学部	35	105	10	1
現代政策学部	23	78	6	1
経営学部	68	175	9	
理学部情報数理学科	6	33	3	
理学部数学科	13	22	4	
理学部化学・生命科学科	9	42	1	
薬学部薬学科	8	72	7	
薬学部薬科学科	4	26	2	
薬学部医療薬学学科	3	35		
リベラルアーツセンター	17	67	14	2
短期大学	10	13		
別科	3	10		
全学合計	199	678	56	4

**B：24年度春学期と比較して25年度春学期での差分**  
すべての項目のトータル平均値（授業数）

学部学科	プラスな授業の数			マイナスな授業の数		
	6.1~	3.1~6.0	0.1~3.0	5.1~	3.1~5.0	1.1~4.7
経済学部	1	3	43	3	58	4
現代政策学部		4	28	2	34	2
経営学部		4	88	6	73	
理学部情報数理学科			12		11	
理学部数学科	1	14		13	1	
理学部化学・生命科学科		21	1	16		
薬学部薬学科	1	34	4	28		
薬学部薬科学科	1	16	1	10		
薬学部医療薬学学科		13	1	15		
リベラルアーツセンター	1	2	33	1	47	6
短期大学		10	2	5		
別科		2		9		



#### 授業中間アンケート

- A) 全設問に対するポジティブな回答の比率  
学生のネガティブな回答は少ないが、その分重視すべき
- B) 2024年度春学期との比較  
一部で悪化も認められる
- C) ポジティブな回答の区分ごとの2024年度春学期との比較  
ネガティブな回答が多いほど改善がなされない傾向がある
- D) 設問ごとの比較：ポジティブな回答の比率  
薬学科では、教材についてネガティブな意見が多い
- E) 設問ごとの比較：2024年度春学期との比較  
ネガティブな回答が多いほど改善がなされない傾向がある

良い授業において改善がなされるため、相対的に良くない授業の悪印象が顕在化する

# PROGテスト解析

新たな取り組み

■ PROGテスト結果の分析 『入学時のPROGテスト結果について(入試区分にて比較)、解析を試みた』

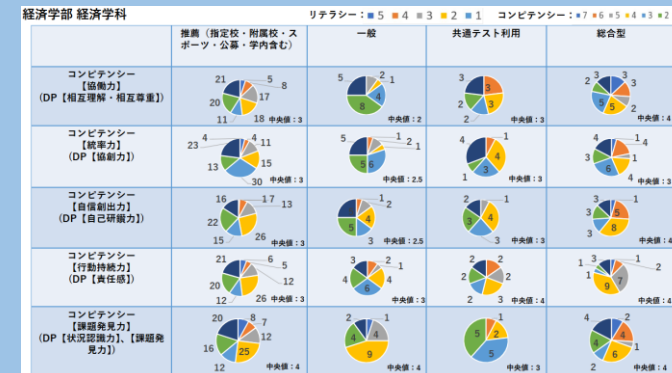
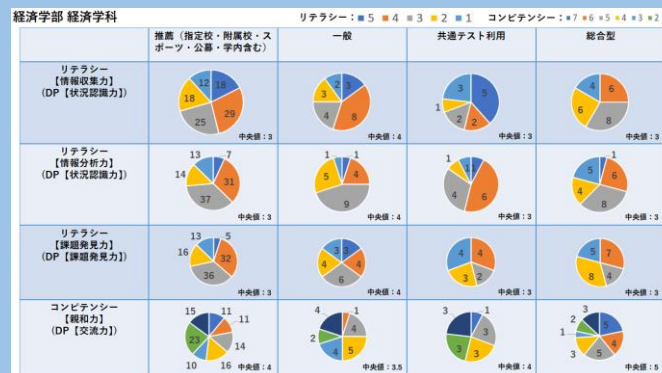
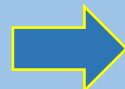
結果、考察

課題と手法

# PROGテスト

## 入試区分ごとの比較

DP1、DP2項目との対応関係も踏まえ、PROGテスト結果と入試区分を比較。



### 結果

- コンピテンシーとリテラシーで結果は大きく異なる。
- 総合型選抜における結果は、学科間で違いが大きい。
- 課題発見力について、入試区分間で違いが大きい学科が多い。
- 薬学科のコンピテンシーは全体的に低い。

## ■ PROGテスト結果の分析 『入学時のPROGテスト結果について(成長度合い)、解析を試みた』

### 課題と手法

PROGテスト

1年ー3年の個人の成長の確認

残念ながら、点数が下がっている学生（マイナス）が多く存在します。

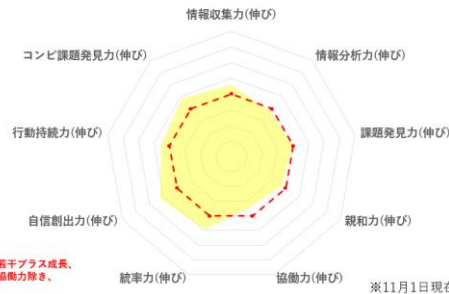
DP1、DP2項目との対応関係も踏まえ、PROGテスト結果から1年生→3年生の成長度合いを解析。

### レーダーチャートを用いたグラフ化

2023年度入学生 PROGテストの伸び率

2023年度受験率：93.1%  
2025年度受験率：86.5%  
受験率は-6.6%

大学全体(全学部学科)



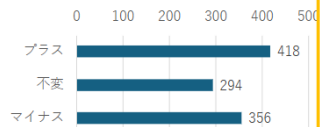
基準線よりグラフが大きく広がっている場合はプラス成長、縮んでいる場合はマイナス成長。

### 結果、考察

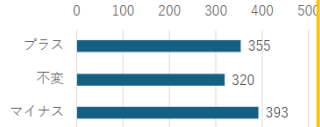
全学 3年(1年生 → 3年生の成長率)

#### ★リテラシー

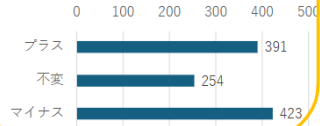
【情報収集力】(DP【状況認識力】)



【情報分析力】(DP【状況認識力】)

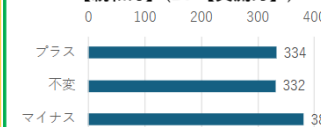


【課題発見力】(DP【課題発見力】)

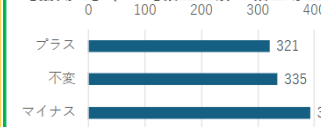


#### ★コンピテンシー

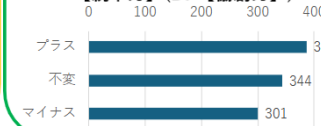
【親和力】(DP【交流力】)



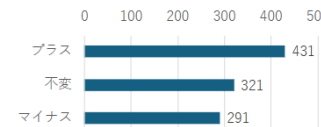
【協働力】(DP【相互理解・相互尊重】)



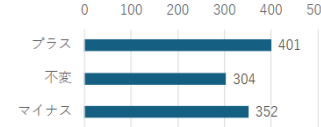
【統率力】(DP【協働力】)



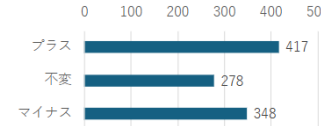
【自信創出力】(DP【自己研鑽力】)



【行動持続力】(DP【責任感】)



【課題発見力】(DP【責任感】)



情報分析力、課題発見力、親和力、協働力の項目がマイナス成長の学生が多かった。  
情報収集力、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力の項目がプラス成長の学生が多かった。

傾向として、「対自己」項目がプラス成長、「対人」項目がマイナス成長となっている学生が比較的多い。

## ■ PROGデータの活用 『退学者の傾向解析(退学者条件を算出、退学者予測に活用)を試みた』

### 結果、考察

#### 課題と手法

### 2. 退学者条件の調査方針

2023年度、2024年度におけるPROGテスト結果を用いて、退学者の傾向分析を実施した。

PROGテストの開発元のリアセック社のアドバイスを元に、**リテラシー、コンピテンシーの要素で “何が高くて”、“何が低い” のか、最頻値を用いて分析を実施した。**

※PROGテストとは、専攻・専門に関わらず、大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向＝「ジェネリックスキル」を育成するための評価手法である。

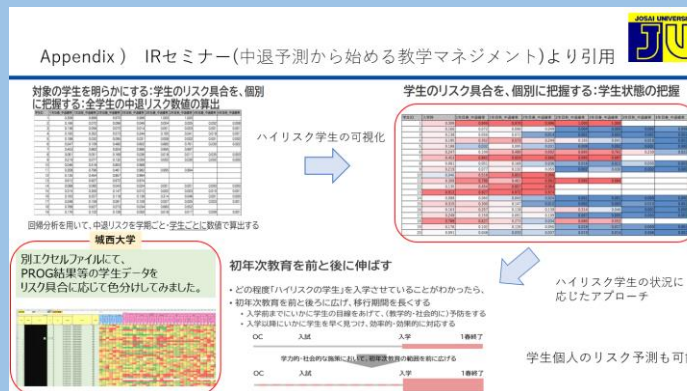
6. PROGテストの全項目の内、極端に高い値、極端に低い値を条件として分析

2023 最頻値 極端な値	2024 最頻値 極端な値
親しみやすさ 低い	対人興味/共感・受容 高い
多様性理解 高い	2023、2024の結果から共通な特徴を採用
人脈形成 低い	人脈形成 低い
役割理解・連携行動 高い	役割理解・連携行動 高い
相互支援 高い	情報共有 低い
相談・指導・他者の動機づけ 低い	相互支援 低い
話し合う 低い	相談・指導・他者の動機づけ 低い
意見を主張する 低い	建設的・創造的な討議 低い
ストレスマネジメント 低い	意見の調整、交渉、説得 低い
独自性理解 低い	
自己効力感/楽観性 低い	自己効力感/楽観性 高い
学習意欲・機会による自己実証 低い	学習意欲・機会による自己実証 低い
主体的行動 低い	主体的行動 低い
完全 高い	完全 高い
本質理解 低い	本質理解 低い
計画評価 低い	計画評価 低い
修正/調整 低い	リスク分析 低い
検証/改善 低い	修正/調整 低い
	検証/改善 低い

左記の退学者条件を用いて、各年度毎の退学者予備軍の学生数を算出した。

年度	経済	現代	経営	理学	薬学	合計
2023						
2024						
2025						

既に退学した学生のPROGデータから条件を導き出し、**退学者予備軍を算出。**



上記のように学生データを色分けし(赤は退学可能性高い、緑は正常)、**退学リスクのある学生(退学者予備軍)を可視化。**

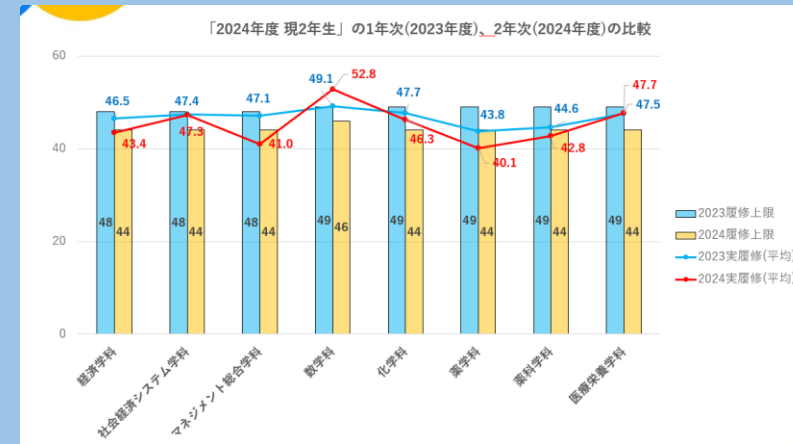
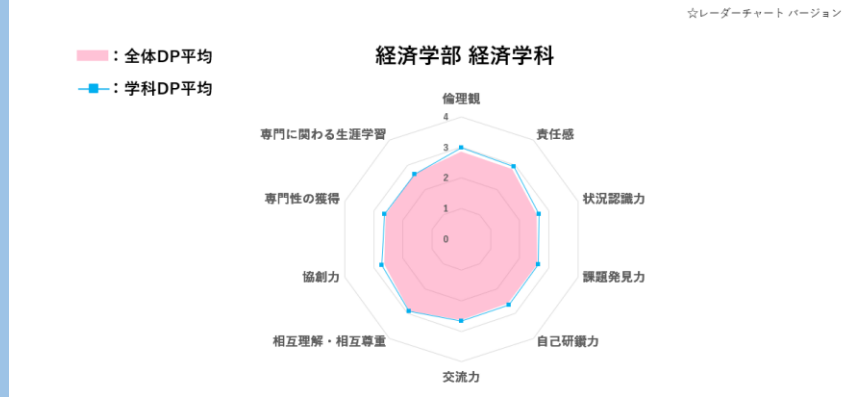
# 学修成果の可視化

新たな取り組み

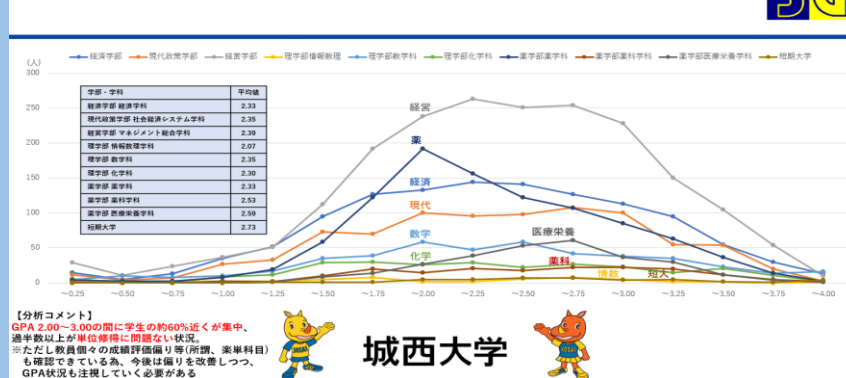
## ■ 学内データの活用 『DP達成度、GPA分布、CAP制の可視化を試みた』

### 可視化の状況

#### 2024年度入学生DP達成度の可視化



#### 全学部・学科のGPA分布



第四期認証評価に向け、  
学修成果の実質化が重視され、  
形だけでなく中身をわかりやすく示すことが求められている。

↓  
大学内外に向けた情報公表をより見やすく、  
よりわかりやすい形で情報発信していく。